

# 水 稻 の 新 品 種

## ツクシバレの特性と肥培管理

九州農業試験場 岡 田 正 憲

### はじめに

ツクシバレは昭和47年度の水稲新品種として登録され、同年から佐賀県で奨励品種、福岡県で準奨励品種に採用され、普及に移されたのであるが、さらに48年度から、福岡県で奨励品種に昇格しようとし、長崎県・熊本県でも奨励または認定品種としてとりあげられようとしている。

このように九州北半で、にわかに脚光を浴びはじめたのは、九州地方の中～晩稲のなかで、銘柄品種はレイホウのみであり、九州全県にわたって、この品種が品種銘柄と産地銘柄に指定されているため、47年度はその作付面積は156,828haに達し、51.9%の作付率となった。

一品種でこのように作付が広がることは、本来の特性からみて、不適地にまで拡がりすぎており、レイホウの作付面積の一部を、ツクシバレにおき代えようとする動きが出ているためと推定される。

以上のようなごとで、ここにツクシバレの特性をご紹介します、肥培管理の要点について述べてみよう。

### 来歴と育成のねらい

ツクシバレは昭和34年、九州農業試験場で「西海62号」（後のホウヨク）を母とし、「豊千本」を父として人工交配を行い、その後、温室を利用して、世代促進法を適用しながら選抜淘汰をつづけ、13年目の昭和47年に新品種に登録された。

現在、九州地方で最大の作付面積をもつ「レイホウ」も、両親の組合わせこそ別ではあるが、同じ年に交配されており、そのスタートは同時期である。

昭和34年といえば、ホウヨクがまだ、「西海62号」という系統名で、短強稈の系統としてはじめて各県に配布された年である。

このころには、すでに西海62号の長所と短所が、育成地で十分わかっていたので、その短所の改良が計画された。

西海62号の残された改良点は、品質食味の向上と、いもち病耐性を強化し、しかもその長所を失わないことであった。この点についてはレイホウ（昭和44年新品種登録）によってその目的が達せられた。

ツクシバレは、ホウヨクの良質化ということで、多収性と短強稈性を母本の西海62号から、品質・食味の点を、父本の豊千本からとり入れようとしたものである。

しかしその後、世代が進むにつれて、ホウヨクに代わるものはレイホウであることが、しだいに明らかになってきた。

ツクシバレはむしろ、草状の点でホウヨクと姉妹品種のシラヌイ・コクマサリに近いので、この二品種に代わるものとして、当初のねらいを多少変更し、その後、選抜淘汰されてきた。

### 特 性 の 概 要

稈長はレイホウより約7cm短く、穂数はやや多い短稈穂数型のうち種である。

第1表にみられるとおり、収量性ではレイホウにまさり、かつて多収品種としていられていたシラヌイと同程度である。

品質では心白・腹白がほとんどなく、九州全県での銘柄品種のレイホウに比べてもやや上位である。食味もレイホウと同等以上である。

玄米は中形中粒で、色沢は餡色がやや濃く、寒地米との混米にも適しているため、関西市場でのツクシバレに対する評価は高い。

ホウヨクの草状を保ちながら、品質といもち病耐性を改良したのがレイホウとすれば、これより一段階短稈のシラヌイとコクマサリの中間の草型

第1表 ツクシバレの一般特性

品種名 形質	ツクシバレ		(比)シラヌイ		(比)レイホウ	
	短稈・穂数型	多肥 極多肥	中 生	短稈・穂数型	多肥 極多肥	中生の晩 やや短稈・穂 数型
早 晩 性 草 型	中生の晩	中 生	中 生	中生の晩 やや短稈・穂 数型	多肥 極多肥	多肥 極多肥
出 穂 期 (月日)	9.6	9.7	9.4	9.5	9.6	9.8
稈 長 (cm)	71	74	70	73	78	81
穂 長 (cm)	19.9	19.9	19.7	20.0	19.7	20.0
m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	344	379	337	349	338	366
a 当玄米重 (kg)	59.3	60.0	60.0	59.5	58.5	59.7
同上収量比 (%)	101	103	103	102	99	103
玄米千粒重 (g)	23.7	23.5	25.5	25.3	23.2	23.2
玄 米 品 質	2.8	3.2	3.5	3.5	3.0	3.2
食 味	良		中		良	
芒の多少・長短 ふ 先 色	少・短 白		稀・短 白		稀・短 白	
ふ 脱 色	黄 白		黄 白		黄 白	
耐 倒 伏 性	やや易 極 強		やや易 強		やや易 強	
耐 病 性	葉いもち病	弱	弱	強	強	強
	穂首いもち病	やや弱	やや弱	強	強	強
	白葉枯病(II型)	強	強	やや強	やや強	やや強
	紋 枯 病	中	中	中	中	中
調 査 地	九州農業試験場					
調 査 年 次	多肥：昭42~45の4カ年，極多肥：昭42~46の5カ年					

(注) 1. 収量比はホウヨクを100とした。  
2. 玄米品質は数値の小さいほど良いことをしめす。

で、良質品種なのがツクシバレだといえよう。

熟期はレイホウと同程度で、九州北半では中生の晩であり、シラヌイよりややおそい。

短強稈のため倒伏にはきわめて強く、また白葉枯病にも強く、この点レイホウにまさる。

葉いもち病・穂首いもち病にはホウヨク・シラヌイと同程度であり、この品種の弱点であるので注意を要する。

紋枯病に対しては中位である。

### 肥 培 管 理

ツクシバレは日本晴に対応した良質品種であり、筑紫平野に最も適することを意味して命名されたものである。

これまで5カ年にわたって、各県で試作されたが、福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県ですぐれた成績をしめし、これら各県の平たん地帯、とくに筑後平野・佐賀平野・諫早平野・熊本平野などのように、肥よく地帯で、しかもいもち病の発生の少ないところに好適する。

対象となる品種は、現在ではトヨタマおよびレイホウの一部であるが、かつてシラヌイ・コクマサリが普及していた地帯は最大の適地である。

熟期がレイホウと同様、中生の晩であるので、標高200m以上の中山間高冷地、あるいはいもち病の常発地には不適である。

草型の点から、地力の極端に劣る地帯も不適である。

作季・栽植密度・施肥量・施肥法などはレイホウ・シラヌイ・コクマサリと同程度でよい。九州農業試験場では、第2表のような施肥で、10アール当り700kgに近い収量をあげている例もある。

第2表 施肥の1例 (kg/a)

施肥区分 三要素	基 肥	追肥1	追肥2	穂肥1	穂肥2	計
	6.21	7.14	7.21	8.14	8.29	
窒 素	0.5	0.2	0.2	0.3	0.2	1.5
燐 酸	0.5	0.2	0.2	0	0	0.9
加 里	0.5	0.2	0.2	0.3	0.3	1.5

(注) 1. 表中の数字はa当り成分量(kg)  
2. 田植 6月26日，収穫 10月28日  
3. 土壤改良剤 稲わら80kg/a，珪酸苦土石灰40kg/a，FTE(微量要素)0.3kg/a

近年、稚苗または中苗による田植の機械化や、直播栽培などが多くなり、稲の本田在位が早くなっており、しかも休耕田が点在するなど、ウンカ・ヨコバイ類の発生に好条件が多くなりつつある。

したがって、苗代末期から本田の初期にかけて、特にウンカ・ヨコバイの駆除を励行すべきである。

本品種の短所からして、いもち病・萎縮病の早期発見、予防、防除にも留意すべきである。白葉枯病には強いが、冷涼な年には病原性の強い菌糸が発生しやすいので、十分な警戒が必要である。